

今年1月7日に、ハワイ島ヒロ山口県人会のキムラさんご夫婦のリクエストで、ハワイと移民資料館をつなぐZoom交流会を行いました。新型コロナウイルスの影響で周防大島を訪れることができない中、少しでも大島を感じ、移民資料館とつながりたい、と伝えてくださったのがきっかけでした。

毎年400名人以上の方がハワイやアメリカ本土からいらっしゃいますが、去年は本場に静かな移民資料館でした。そんな中行ったZoomでの交流会。慣れない中継でしたが、当日はハワイ



から57名の方が参加してくださいました。

新年の挨拶とともに、門松や資料館の冬の装いを説明したり、資料館屋敷の歴史について説明したりしました。一階を簡単にご案内した後は、参加者とのQ&Aを交えた交流の時間を設けました。椎木前町長も参加してくださり、ハワイとの交流の話に花が咲きました。

みなさんのルーツに対する想いや、また大島を訪ねたい、という情熱を感じることができました。2021年、周防大島とハワイの草の根の交流のホームベースとしてこのような企画を充実させていけたら、と考えています。(西田)

浜本栄写真展

八幡生涯学習のむら

瀬戸内海の
こどもの暮らし
昭和40年代の周防大島を中心に

かつて、海は生産や暮らしの場として親しまれてきた。こどもたちは大人が働く姿を間近に見ながら、遊びのなかで仕事を覚えていきました。また一家総出での潮干狩りや魚捕りは楽しみでもあり、漁の季節や道具の使い方など暮らしの知恵を親から子へと教えていく伝承の場でもあったのです。

今では見られない船での暮らし、急斜面の路地での荷運び、「なむでん踊り」や「イノコ」といった伝統行事。昭和30～40年代のこども達の日常を写した写真からは当時の暮らしが読み取れます。

今回の展示では、周防大島日前に生まれ育った写真家・浜本栄氏の写真を中心に島のこども達の姿を通して昭和の暮らしを振り返ります。(古賀)

【期間】令和3年3月28日(日)9時～16時/入場無料

【休館日】月曜(祝日の場合はその翌日)

【会場】八幡生涯学習のむら 学びの間

【問い合わせ】0820・72・2601



猫車は荷車が通らない細い道でも使うことができる。車輪が小さいので車体が低く、ひっくり返りにくいので重宝した。大正時代に刊行された『大島郡大観』では荷積車、荷積牛馬車と共に猫車が数えられており貴重な道具であったことがわかる。昭和40年代の周防大島の農家では一軒に一台は必ずあったという。

猫車の作りは簡素で、反りのある二本の長い木の間に横桟を数本入れて荷台とし、端に丸太を輪切りにした車輪をとりつける。もう一方の端はにぎりやすいように削り、持ち手とした。これに柄縄をとりつけ、肩にかけて使用した。山仕事に行った時、猫車を作るのにちょうどよい曲がり具合の木を見つけたと取っておいて乾燥させておいた。車輪は多くは松の木がよく肥えたところを選んで作った。女性用は小さくりにするなど、体格や作業に合わせて使いやすいうに工夫した。

写真の猫車は久賀で使われたもので、長さ2・7メートルと同地区に残る他の猫車に比べて1メートルほど大きい。寄贈者によれば、センバ20束という大量の荷を積んで行き来していたそうだ。センバとは松



の枝の事で、焚き付けや料理の際の燃料として利用された。みかん畑でも急な斜面での荷運びに活躍した。中には車輪に鉄を巻いたものもあり、猫車が使われた道の厳しさがうかがえる。時代が下ると車輪はゴムに変わっていった。

「猫車」という名前の由来ははっきりしていない。しかしながら、生活のそばにあって静かに暮らしを支えた道具の一つであるといえよう。(古賀)

暮らしのモノ語り

六万点の民具から：
猫車(ネコグルマ)

通称ネコと呼ばれた。荷車の一種で俵や薪、肥料などを運んだ一輪車。大正期以降に普及した。

周防大島とハワイ

移民たちの足跡



2019年に国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）にて企画展示「ハワイ・日本人移民の150年と憧れの島のなりたち」が開催されました。日本ハワイ移民資料館から多くの資料を貸し出し、周防大島とハワイ移民に関する特別パネルも展示されました。日本からハワイへの移民の歴史を多角的に学ぶことができる展示内容で、全国的に注目されました。しかし、実際に見に行けた町民の方は少なかったのではないのでしょうか。

そこで、この企画展示を地域社会にフィードバックしようと、国立歴史民俗博物館や国語研究所と共催をし、「周防大島とハワイ」移民たちの足跡」というテーマでパネル展示を行うことになりました。

ハワイ移民の歴史の全体像、周防大島からハワイへ渡った人たちの素顔や周防大島の移民史跡、また周防大島とハワイとの交流の変遷を振り返る内容です。

ぜひこの機会にご来場頂き、周防大島からハワイへの移民の歴史や文化を学んでみてはいかがでしょうか？（西田）

【会場】宮本常一記念館（周防大島町平野）
【会期】2021年3月15日（月）～5月9日（日）
【主催】周防大島町、周防大島町教育委員会
【共催】国立歴史民俗博物館、国立国語研究所

【後援】日本ハワイ移民資料館、公益財団法人大島郡国際文化協会、島の生活文化研究会、NPO法人周防大島郷土大学、橘郷土会

【協力】スタンフォード大学フーヴァー研究所、山口大学

【入場料】無料

【問い合わせ】0820・78・2514

講義録
出来上がりしました

八幡生涯学習のむらで開催された講演の講座講義録をご希望の方に実費でお分けします。

特別企画展「久賀小唄の世界」関連講座として戎谷和修先生に講演いただいたものを収録。



令和元年度講義録…
「久賀でうたわれた唄」一冊2000円
【問い合わせ】0820・72・2601

イベントひろば

周防大島町陸上競技場・総合体育館

季節のヨーガ教室「初夏クラス」の募集を開始

この数ヶ月で身体もココロもストレスが溜まっていませんか？週に一度、自分とゆっくり向き合い行うヨーガの時間でココロとカラダを、もっと深く丁寧に調整してみませんか。本格的にやってみてみたい方



はもちろん、身体の固い方や初心者の方、どんな方にも受けて頂けるクラスです。

安全に、安心してクラスをお楽しみいただけるよう、感染症対策を徹底しながら運営を行います。皆様のご参加お待ちしております。

【講師】三浦さおり（日本ヨーガ禅道友会所属）

【場所】周防大島町総合体育館アリーナ

【最低遂行人数】10名

【参加料】1期9回分 5600円（保険料込・初回時徴収いたします）

【持物】ヨガマット（またはバスタオル）

【日程】4月19日～6月21日までの毎週月曜日（全9回 19時半～20時半）

【申し込み】0820・78・2512

※この教室は1期9回を通して受講していただくことで「日頃のヨーガ」となるようなプログラム作りをしています。

八幡生涯学習のむら

陶芸教室作品展を開催

講師・受講生の作品展。一年間の成果をご覧ください。

【期間】3月26日（金）～28日（日）

9時～16時（最終日は15時まで）入場無料

【場所】ふれあいの間

陶芸教室のお誘い

◆本格講座

【開講日】①毎月第一、三水曜

②毎月第一、三水曜 ③毎月第一、三土曜

※時間はいずれも13時～15時

④毎月第一、三水曜19時～21時

【受講料】1500円

（年間一括払い15000円）

材料費…粘土代1kgにつき200円

◆入門講座（初心者向け）

陶芸の基本技術を習得するコース。本格講座の4つの開講日のいずれかに連続3ヶ月ご参加いただけます。

※受講料は同じ。別途、入会金1500円が必要です。

【申し込み】0820・72・2601

宮本常一記念館

▼没後40年企画展示「宮本常一の読書」開催中



本町出身の宮本常一は日本全国の農山漁村を旅し、膨大な生活文化の記録を執筆しています。その宮本の旅を支えたのが読書でした。宮本は旅先で何を見て、何を感じるかと、本に向かい合いながら考えを深めています。今回の企画展示では、宮本常一の知のバックグラウンドとなった読書について、本館が所蔵する資料の中から宮本愛読の書籍を紹介します。

【期間】令和3年3月23日（火）まで（水曜日休館）。

【会場】宮本常一記念館展示室

【入場料】大人300円、小人150円、町内中学生以下無料

【問い合わせ】0820・78・2514

※本誌掲載の各種情報は新型コロナウイルス感染症の影響で変更になる場合があります。必ず主催者へお問い合わせください。